

## 学校自己点検・評価総括

平成 18 年度から附属高等学校・中学校において一斉に実施した、自己点検・評価は、20 年度も引き続き①「組織的な自己点検・評価」、②「教員個人による自己点検・評価」、③「生徒による授業評価」の 3 点を柱として実施した。

①「組織的な自己点検・評価」は、学校の組織的な取り組みや成果を調査・点検することにより、現状、評価できる点、問題点、翌年度以降の取り組み方策及び改善に向けたスケジュールを導き出すことを目的として実施し、最終的に「学校自己評価票」としてまとめ、各校における取り組み指針として活用する。

②「教員個人による自己点検・評価」は、専任教員・非常勤教員が自分自身の教育活動に関して点検・評価を実施し、評価できる点、問題点、次年度の目標を導き出し、各教員の教育力の向上を図ることを目的として実施した。

③「生徒による授業評価」は、学校教育の中心が授業であることに鑑み、その結果を各教員の授業改善を図るための材料として活用することにより、生徒に対してより良い授業を提供し、教育効果を向上させることを第一の目的とし、また、組織的な取り組みとして各教科等でも活用するものである。

なお、平成 21 年度は、「平成 20 年度学校自己評価票」に記載された「各校が目指す学校像」、「取組目標及び課題」について教職員全員が共通認識を持ち、必然的に一層の改善・改革に向けて取組まなければならない。

ここでは、平成 20 年度の自己点検・評価総括として、各校で作成した「学校自己評価票」の内容を基にし、主に組織的な取り組みについて総括し、附属高等学校・中学校の現状と今後の取組課題についてまとめた。

なお、組織的な自己点検・評価の評価項目等は以下のとおりである。

評価項目	評価事項	担当分掌
教育活動	教育の内容、方法	教務部
	教員組織	
	教育設備	
	その他教務に関する事項	
学校生活への配慮	生活指導の内容、方法	生活指導部
	生活指導の組織体制	
	その他生活指導に関する事項	

課外活動	生徒会活動に関する事項	生徒会指導部
	部活動に関する事項	
	課外活動の組織，指導体制	
	その他課外活動に関する事項	
進路指導	進路指導の内容，方法	進路指導部
	進学指導体制	
	生徒の進学状況	
	生徒の就職状況	
	その他進路指導に関する事項	
保健衛生	保健衛生の体制	保健衛生部
	環境対策	
	生徒の健康管理	
	その他保健衛生に関する事項	
図書	読書指導の体制	図書部
	蔵書，座席数等，図書室の環境	
	図書の管理	
	その他図書に関する事項	
広報	広報活動の組織体制	広報部
	校内・外に対する広報活動の適切性	
	生徒募集	
	その他広報に関する事項	
管理運営	分掌・会議・委員会等の組織体制	事務室
	財政状況	
	施設・設備，校地，校舎	
	労務	
	その他管理運営に関する事項	

## 1 平成 21 年度 of 取組目標及び方策

### ① 教育活動

具体的取組目標で目立ち始めたものは，平成 25 年度より導入される新学習指

導要領に基づく新カリキュラムの検討である。昨年度は文部科学省より改定案の公表が遅れたため、今年度にずれ込んだ学校もある。また、シラバスの作成や充実を目標にあげている学校もある。これらは学習活動に直結し、学習の成果や進学実績等に重要な役割を担うと共に学校に対する評価にもつながる。その他は、教務に関する内容や内規申し合わせ事項等を充実させること。また、教員自身のスキルアップ、授業力の向上、生徒が自主的に授業に取り組める様にする、家庭での学習時間の確保等があげられており、学校と家庭の連携協力のもとで学習の向上を計ることも必要である。

## ② 学校生活への配慮

各学校とも基本的な生活習慣の確立を目指して、一生懸命取り組んでいる様子が伺える。

朝、先生方が校門に立って服装の乱れた生徒に対しては注意をしたり、また学期ごとの全校集会、学年集会などの時、始業式または終業式後に服装、頭髪検査などを実施して良い方向に向かっているようである。ただ、肝心なことは生徒に学校生活を送るうえで守らなければならないルールを理解させ、自覚させることである。そのためには日常の HR 及び LHR などを利用して、きめ細かな指導を心がけたい。

交通ルールの順守については、学校ごとにそれぞれ地元の警察との情報交換を行ったり、または警察関係者を講師に招いて交通マナーについての講座などを開催して、生徒に注意を喚起させている学校が多いようである。悲惨な交通事故に遭わないためにも今後も指導を徹底していかなければならない。また、最近問題になっている薬物乱用、ネット上のいじめ問題、サイバー犯罪の防止対策を講じている学校は少ない。これらの問題に対しても具体的に早急に取り組む必要がある。

## ③ 課外活動

部活動、生徒会活動、学校行事などについての記述内容が大半を占めたが、中には海外の語学研修、高大連携教育、修学旅行などについてのももあった。各校とも各行事における実施方法について様々であるが、円滑に運ぶように工夫を凝らしている。生徒が充実して楽しい学校生活を送るためにも、これらの行事は今まで以上に大切となってくる。これらの行事を盛り上げていくために、

もっと生徒と教職員との意思の疎通を図ることが重要になっている。

ボランティア活動については積極的に取り組んでいる学校が多いとはいえなかった。社会に有為な人材を育成する意味でも、生徒に対してボランティア活動についての教育、人に優しく接する善良な気持ちの育成、道德教育などを重視していかなければならない時期にきている。

#### ④ 進路指導

学校にとって、進路実績が生徒募集等に直接関係することから、進路指導は学校としても、また本人や保護者にとっても大切な事柄である。

まず、第一希望の大学に進学できる様に努力する。それには早いうちからキャリア教育を推進し、適切な進学情報を提供する。これにより、自分に合った進路選択ができるようになる。また、日頃実施する各種試験の結果を分析することによって、その生徒の得意・不得意分野の確認を行い、不足している箇所は常に補うようにして受験に備える。

進路の手引等を作成して誰でも統一した見解のもとで、それぞれの生徒に対する適合した進路指導が行えるようにしておくのも良い方策になると思う。

日大統一テスト実施後の学習指導も重要で、推薦や AO 入試等で合格した生徒は入学までの日数が長く、この期間を有効に過ごす事により大学入学後における授業への接続をスムーズに行う事が出来る。また、センター入試の最終的な仕上げや、大学の一般入試に備えて最終調整が出来る時期でもあり、有効利用を考える必要が十分にある。

#### ⑤ 保健衛生

各校とも生徒が安全で心身ともに健全なる学校生活を送るために必要な定期健康診断を実施しているが、更に適切な運営を図るため、効率的なシステム化を推進している学校がある。このことは形骸化している運営方法を検証し、改善しようと努力しているものと評価できる。また、平成21年度から校医（産業医）や歯科校医との連携を図り予防医学などに対する指導助言を求め、積極的に取り組もうとする学校が現れている。「保健だより」を有効に活用し、季節に応じた疾病などに関する保健情報や健康管理情報を提供し、インフルエンザや麻疹などの学校伝染病の予防やその啓蒙活動をはじめ、AED（自動式体外除細動器）の設置場所や安全な利用方法を紹介するなど、各校とも工夫を凝ら

している。更に、保健室の業務は身体の健康管理のみならず、心の健康管理にも深く関わってくる。そのため生徒相談室あるいは学校カウンセラー・担任及び家庭において、個人情報保護の観点も含めて密なる連携を図る必要があり、すでにその対策を講じ始めている学校が現れている。

なお、校内外の美化清掃活動を推進するなど、美化意識の高揚や環境教育にも多くの学校が積極的に取り組んでいる。また、学校によっては思春期の生徒に対する性教育講座を企画するなど、自己啓発や健全な学校生活を送れるよう配慮している。

## ⑥ 図書

各校が掲げる第一義的目標は読書の推進とその啓蒙である。その方策として、まず蔵書の点検、確認のための管理システム・蔵書検索システムの構築が挙げられる。結果、既刊蔵書図書の確認と新規購入図書の充実の上に、図書館の管理運営が効率的に機能してくる。そのことにより生徒の図書館利用の利便性向上を考慮し、適切な人員配置と運営の円滑化が求められ、図書委員の有効かつ機能的活用が図られている。また、新入生に対する図書館利用ガイダンスをはじめ「図書館だより」「図書新聞」などを活用することで推薦図書の紹介や利用のPR活動を積極的に推進し、図書館情報の提供や読書意欲の向上に努めている。更に、学習支援や読書支援のツールとして「読書ノート」を配布するなど工夫を凝らしている学校もある。第二義的には図書委員会の整備と委員の意識向上である。委員会活動活性化のために話し合いの場を設けるなど、活動の意義を明確化して任に就かせる工夫もしている。その中で、一部生徒による返還遅滞者や紛失者への指導の徹底とその対策に苦慮している様子が伺える。

なお、上層階から地上階への図書館の移設をはじめ、閲覧室の環境整備・自習室の設置や学級文庫の充実などで、更に一層利便性の向上に努めている。

一方、中学生版文芸コンクールを計画している学校があり、これは各付属中学校における国語科及び付属学校課との連携を必要とするが、意義深いことである。

## ⑦ 広報

首都圏における併設高校をもつ中学校にとっては、就学人口減少期にあっても公立における中高一貫校及び学校週5日制などの観点から、一定数の受験生

は確保している。しかし、高等学校にとっては入試の多様化により推薦入試で約半数の入学生は確保しているものの、一般入試では本来、潜在的に存在していた高校受験生を前倒しの形で、中学校受験にとられているのが現状である。特に、女子単独校にとっては厳しいものがある。他方、首都圏以外においては県立または公立志向の中にあつて、教育委員会との調整もあり、最終的入学者の確保は3月後半まで確定できない状況である。このように各校とも、公立を含めた他の私立高等学校等との生き残りをかけた熾烈な戦いが展開している。そのため校内における学校説明会はもちろんのこと、学習塾・出版社等が主催する校外での進学相談会には全教職員が参画して、広報活動に当たっている。

広報活動の入り口にあたる学校案内や募集要項・ポスター等の作成は、視覚的に第一印象による他校との差別化を求め、一目でわかる魅力的な学校のイメージを追及している。各校とも受験生及びその保護者にとって満足度の高い学校説明会であるために説明ブースの充実や説明方法等の改善、あるいは学校行事等への積極的な誘いをするなど、授業参観、オープンスクール開設講座などに工夫を凝らし広報活動を展開している学校もある。

内部的には組織の充実と役割分担の明確化、広告媒体の見直しや学校案内の中高分離、ホームページの更なる充実と新たな展開、学校広報誌の拡充等に加え、受験生の安定的確保を求め中学校訪問の実施や学校案内・募集要項等の送付をしている。その上で、入試広報業者との提携を図りながら、種々の研究会への積極的な参加による受験情報の早期収集やその分析結果から受験生の動向を知ること、次年度への改善がなされている。

## ⑧ 管理運営

本学付属各校における校舎老朽化並びに耐震基準不適合等による校舎建替え問題は、ある程度の進展は見られているが、喫緊の課題としてすぐに着手しなければならない学校がある。本学の教育環境や生徒の安全に対する姿勢は目に見える形で生徒募集に関わってくる問題でもあり急務でもある。同様にほとんどの学校が、安全性・利便性のもとに既存施設の改修を実施し、常に教育環境の整備を心がけていることは大切なことでもある。また、教材資料や成績資料等個人情報を含めた学校情報等について、機能的なLANを利用した校内ネットワークによりグループウェアを構築し、その上で教職員のモラルあるいは情報セキュリティに対する意識対策を強化し、個人情報の漏洩防止や紛失対策な

どの危機管理に備えている点は最も基本的なことである。また、各校の委員会組織の多くは細分化され、教職員の負担増に繋がるおそれがあるため見直しを図ることで、整理・統合し改編し直す動きがある。平成18年度に始まった自己点検・評価及び授業アンケート等は、回を重ねるごとに教職員・生徒とも意識改革と自己啓発の機運が高まっていることもあり、形骸化を避け、結果を尊重することで早期改善を図る方向性は高く評価できる。

なお、分掌組織における職務は、ある面一極に分担が集中することがあり過重労働を強いられる場合がある。職務過多の教職員には産業医との面談を告知しているが、より良い環境でより良い教育を進めるためにも教職員の健康を第一として、ワークシェアを推進しようとする学校があるが、安全衛生面からも意義深いものである。

以 上